

パオちゃん's EYE

2021年7月1日 発行 No.52

オキナグサ

2021年6月23日～7月4日まで、特別展示室で特別陳列「宮沢賢治の石ものがたり」を開催しました。臨時休館のため、会期は当初計画の3分の1ほどになりましたが、文学作品と地学標本のコラボという異色の展示になったのではないかと思います。

この展示作業を進める中で、宮沢賢治の作品中に多くの植物も登場することを知りました。たとえば、木ではカシワ、カバノキ、ヤナギ、マツ、ニレ、クリ、クルミ、ヤマナシ、ノイバラなど、草ではスズラン、ツメクサ、ウメバチソウ、ススキ、ヨモギ、リンドウなどです。作品中で岩石や鉱物は珍しいものが多く出てくるのに対し、植物は人里近くの野山でよく見られるものがたくさん登場します。

オキナグサも作品に何度も登場する植物のひとつです。明るい野原に生えるキンポウゲ科の多年草で、花が終わった後のめしべに銀白色の毛が密生する様子をお年寄りの頭に見立てたのが名前の由来とされます。花卉に見えるものはがく片で、外面は黒っぽく見え、内面は赤っぽく見えます。

宮沢賢治の生きた明治中期～昭和初期にかけては岩手県内のあちらこちらでオキナグサが見られたのでしょう。岡山県でもかつては中部以北で見られたようですが、最近では北部のごく限られた場所で見られなくなっています。岩手県と岡山県の両方のレッドデータブックで絶滅がもっとも心配されるランクに位置付けられています。

狩山俊悟(植物担当)



写真. オキナグサの花 (左) と果実 (右).

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには
いろんな情報がいっぱい♪
「倉敷市立自然史博物館」で
検索してみよう! パオより

